



—東地中海地域ニュース—

イスラエル：ネタニヤフ政権発足100日 (7月9日付イデオット・アフロノット紙)

7月9日、イデオット・アフロノット紙電子版が、発足後100日を迎えたネタニヤフ政権を評する記事を掲載している。概要は以下の通り。

〈ポイント〉

- (1) ネタニヤフ政権の最初の100日間は「ジグザグの100日間」であり、ネタニヤフ首相は政権の維持に頭が一杯で決断力を失っている。
- (2) 今や、ネタニヤフ首相が周囲の圧力に弱いことは誰の目にも明らかである。
- (3) 以上の問題にも関わらず、連立与党の党首はネタニヤフ首相を支持しており、リクードの議員の大多数もネタニヤフ首相の対外政策変更にも異を唱えておらず、少なくとも現時点ではネタニヤフ首相の地位は安泰である。

【本文】

1. ネタニヤフ政権の最初の100日間は「ジグザグの100日間」と名付けられることについて、連立与党及び野党の双方の見解は一致している。
2. ネタニヤフ首相が土壇場で野菜・果物への付加価値税免除の撤廃案を撤回した事について問われた有力閣僚の1人は、肩をすくめネタニヤフのジグザグ行動はこれが初めてではないとつぶやいた。またある閣僚は、首相は1時間ごとに考えを変えてしまう、政権の維持に頭が一杯で決断力を失っていると語った。
3. ネタニヤフ首相は、二国家解決支持を表明する僅か数週間前には、パレスチナ国家への断固たる反対の立場を表明していた。ネタニヤフ首相が米国からの圧力が真剣なものであることを理解するのに2ヶ月を要し、その間にイスラエルの国際的立場は傷つき、米国との間の緊張はかつてないほど高まってしまった。
4. ネタニヤフ首相は、連立与党の労働党及びシヤスの圧力に屈して、野菜・果物の付加価値税免除の撤廃を撤回した。今やネタニヤフ首相が周囲の圧力に弱い事は誰の目にも明

らかであるが、問題はネタニヤフ首相がおかれた状況を理解するのに時間がかかりすぎることである。

5. 有力閣僚の1人は、野菜・果物の付加価値税を巡る騒動を評して、イスラエル政府には財務省が存在しない事が再度明らかになったと語り、自分がスタイニッツ財務省の立場なら辞任すると述べた。
6. 以上のような深刻な問題を抱えながらも、連立与党のイスラエル・ベイテイヌのリバーマン党首及び労働党のバラク党首はネタニヤフ首相を支持しており、リクードの議員の大多数もネタニヤフ首相の対外政策変更に異を唱えておらず、少なくとも現時点ではネタニヤフ首相の地位は安泰である。